

科目名：表現（指導法） (必修1単位)		担当教員名：福眞律子 担当形態：単独	使用テキスト：出版社名・テキスト名 ひかりのくに・手遊び百科
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深め、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>			
<p>【授業の概要】 1. ①基礎リズム ②ソルフェージュ ③手遊びを行い音楽的要素を身体感覚を通して表現し、即反応できるようにする。2. 幼稚園・保育所で実践的に活用できるよう指導場面を想定した保育を構想しながら豊かな表現を身に付ける。</p>			
回	項 目	内 容	
1	オリエンテーション	領域「表現」について授業の概要を説明する。 上記の①～④の説明をする。(①～④は実技として毎時間行う)	
2	幼児教育と表現の領域について	幼児教育の基本及び領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現の姿と関連付けることを通して理解すると共に、乳幼児の総合的な成長発達について学ぶ。	
3	領域「表現」の捉え方	表現活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に関連付けることを通し、幼児の表現における評価の考え方を理解する。	
4	領域「表現」のねらいについて	豊かな感性を育み表現を引き出す言葉かけについて理解し、具体的な保育を想定した指導の場面での活用を考える。	
5	幼児の発達と表現	3歳未満児の発達に伴った表現の援助の方法について学ぶ。	
6	幼児の発達と表現	3歳～5歳児の発達に伴った表現の援助の方法について学ぶ。特に5歳児は小学校の様々な教科との学びの連続性について理解する。	
7	保育者の表現における援助の方法	モデル指導案に基づいた保育実践をイメージしたり部分的な体験をしたりして、保育者の援助について考える。	
8	海外や国内の音楽メソッドについて	国内外における音楽メソッドを参照にし、音楽表現における保育実践の動向についての知見を深め保育構想の向上に取り組む。	
9	障害児の表現	障がい児の表現の援助と周りの幼児との関わりや聴覚障がい、視覚障がいの感覚を知り、幼児が経験して身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。	
10	表現活動と保育環境	感性的な出会いの豊かな音環境について、自ら身体の諸感覚を通じた体験を生かし、具体的な環境構成を考える。	
11	園生活における表現活動	表現活動における情報機器及び教材の活用法を理解し、季節や園の行事についての事例を通して学び、保育構想に活用できるアイディアを考える。	
12	表現活動のいろいろ	音楽的なねらいについて具体的に考え教材研究を行う。(いろいろな歌・わらべ歌等)	

13	表現活動のいろいろ	音楽的なねらいについて具体的に考え教材研究を行う。 (身体の動きを通しての表現活動等)
14	指導計画の作成	3歳未満児の音楽遊びの指導案を作成して模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。
15	指導計画の作成	3歳～5歳児の音楽表現の指導案を作成して模擬保育を行いその振り返りを通して保育の改善について考える。
	期末試験	
<p>参考書・参考資料：</p> <p>表現（監修・指導：小林美実、編者：高野雅子）保育出版社、 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示）</p>		
<p>学生に対する評価方法：</p> <p>1. 提出物 2. 期末試験 3. 授業態度            1～3を総合的に評価する</p>		